

下館ロータリークラブ会報

SHIMODATE ROTARY CLUB WEEKLY REPORT 2023-24

第 02653 号 発行日：令和 6 年 1 月 24 日



世界に希望を生み出そう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



本日のプログラム

和菓子製造実演
中村 敏明 明月堂店主

次週のプログラム

職業奉仕月間卓話

会長／宮田 憲一 副会長／神山 芳子 幹事／堀 江 勤 会長エレクト／宮田 憲一

例会 毎週水曜日 12:30 ダイヤモンドホール (〒308-0847 茨城県筑西市玉戸1053-4 ☎0296-28-8511)
ホームページ <http://www.shimodate-rc.gr.jp> Eメール shimodate@ri2820.jp



前例会報告 第 3042 回 2024/1/17(水)

来 訪 者 ようこそ下館 R C へ

渡辺 明照 様(最勝寺住職)

会 長 挨 拶 宮田 憲一 会長

みなさん、こんにちは。

まず、本日のゲストを紹介いたします。筑西市笹塚にございます最勝寺ご住職、渡辺明照(みょうしょう)様です。

10月に開催いたしました『茶例会』では最勝寺様には大変お世話になりありがとうございました。本日、ご住職には卓話を頂戴いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、先週の3RC合同新年会へのご参加ありがとうございました。新型コロナの影響により4年ぶりの開催ということで、筑西市内3つのロータリークラブ間の交流を深めることができ、大変良かったと思います。その中でもお話しがありましたように、令和6年1月1日午後、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の大地震が発生し最大震度7を観測しました。

連日、ニュースでも報道されている通り、200名以上の方がお亡くなりになり、また家を失うなどして避難所生活を余儀なくされている方々も、3万人を超えるなど、現在も大変な状況が続いております。

厳しい寒さの中、被災されている皆様には心からお見舞い申し上げます。

私たち、国際ロータリー2820地区でもいち早く支援の決定がなされ、石川県七尾市で地域医療を瀬戸際で守っている『恵寿総合病院』へ緊急支援物資を新井和雄パストガバナーが地区財団委員長として輸送の責任者・支援隊長となり、11日にお届けしました。



恵寿総合病院の理事長神野正博(かんのまさひろ)先生は、新井パストガバナーとは同期ガバナーで、いち早く連絡を取り合い、被災地域で緊急手術、透析や出産など命を守る医療従事者のサポートの重要性から、食事栄養面で支援物資を届けることとなりました。カップ麺8000食をはじめ、水、トイレットペーパー、衛生用品などわずかな期間で4トトラック4台分の物資を集め、我々下館ロータリークラブでも甘いお菓子や栄養補助食品などをご用意し、合わせて届けていただきました。



物資の買い出しなど急なお願いにもかかわらず、衛星クラブからもお手伝いいただき、およそ10万円分の支援品をご用意することができました。

また、神山パスト会長のご縁で筑西市舟生のセイワ食品様からもたくさんのチョコレート菓子のご提供をいただきました。本当に心から感謝申し上げます。

支援物資も全国から集まり、インフラも徐々に回復しますと、今後やはり必要となるのは支援金です。2820地区では、会員一人につき2000円を地区でとりまとめ、ガバナー事務所より第2620地区災害支援本部へ送金手続きを行うことが決まりました。皆様には引き続きご協力をお願いいたします。

支援物資をお届けした時の写真を新井パストガバナーよりいただきましたので、後ろのホワイトボードに掲示しておりますので、ご覧ください。

今月は職業奉仕月間です。

震災の発生からずっと休みなく被災地で命を守る医療従事者の皆さん、介護に従事する皆さん、道路や水道、電気などの復旧に当たる



方々、一刻も早く事業を再開しようと奮闘されている方々、自身も被災しながら避難所で様々なお世話をする方々、行政職員、自衛隊、警察官、消防署員の方々、皆さんの奮闘している姿には本当に感動します。

地震が収まり、一刻も早い復興をお祈りいたします。

会長あいさつは以上となります。

幹事報告

堀江 勤 幹事

○配布物

- ・ 1月、2月プログラム
- ・ 下半期会費納入のご案内

○ガバナー事務所より

- ・ 能登半島地震災害支援のお願い 1人 2千円
- ・ 国際協議会からのメッセージ

○ガバナー補佐より

- ・ IM登録のお願い

○クラブより

- ・ 岩瀬RC 1月例会の変更

卓話『十三仏について』

渡辺 明 照 最勝寺住職



▼旅路の心構え

人が死んだら何なくなってしまう、というのはあまりにも悲しすぎます。

鳥でもよい、風でもよい、星でもよい。とにかく、どこかに生きていて、私たちを見守ってくれている、と思いたいものです。

私たちは自然の循環ということを学んでいます。それからいうと、私たちのいのちもその循環のなかで生まれ、また循環のなかに帰っていくと考えてもよいでしょう。

そうであっても、大切な人を失うのはやはり寂しすぎますね。

この世でのご縁が後生も続いてくれば、それこそ願ってもないことです。

『阿弥陀経』というお経には「俱会一処」、つまり「ともにひとところで出会わせてくれる」という仏さまのおことばがあります。あなたが後生(あの世)で、ご縁のある人と一緒になりたいと願うならば、それをかなえてあげましょう、ということです。

それは素晴らしいことですが、「そんな簡単に一緒になれるのかな」と、だれでもいぶかしく思えます。

もちろん、それなりの修行を積んで初めてそれがかなうことでしょう。

でも修行をまっとうしてそれがかなうのなら、どんな修行もいといません、愛する人とはんとうに出会えるなら。

だれでもそう思うはずです。

「死んでしまったら修行もできないではないか？」もちろんそんな疑問がすぐにわいてきます。

ここで考えてみましょう。私が生まれる前は「無」だとします。それが不思議なことに、一つの因縁によって、あらゆる難関を乗り越えてたった一人の「この私」になって生まれ出たのです。

「私」は父と母を選んで生まれてきました。両親からすれば選ばれて来たと言えるのです。これが「ご縁」です。

するとまた、「無」に帰るときに不思議なご縁があってもいいのではないですか。

でも、意にそわない嫌なご縁では困ります。それなら阿弥陀さまにひたすらお願いして、後生をお頼みするのが一番でしょう。

さて、そうなるとますます修行が気になります。

死んでも修行ができるのですか。死んだら修行が間に合わないのではないですか。

もっともな疑問です。

しかし後生があるとすれば、しかも、阿弥



陀さまのお浄土に行きたいとすれば、仏さまのお慈悲によって、生まれ変わるあいだも修行とすることができるのです。

それはちょっと変わった懺悔の修行、つまり罪を滅ぼして悔い改めるという修行です。

死んでしまって善いことをしようにも己の自由になる身体はないのですから、もはや善いことはできません。あとは生前におかしてしまった罪を洗い落とすことだけが残された道でしょう。いや、じつはそれが一番大切といえる修行なのです。

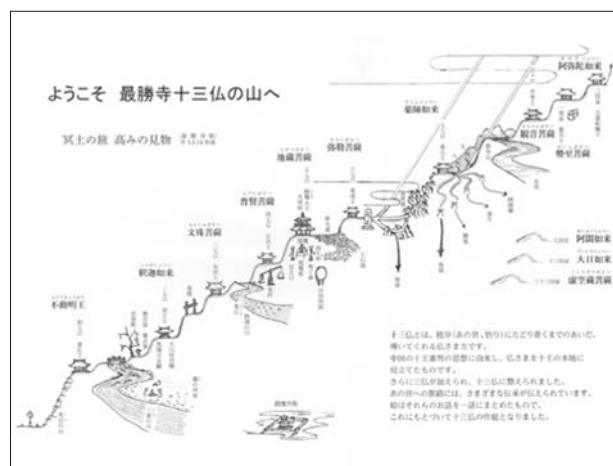
懺悔は修行の入り口であるとともに、修行を続けるための一番の力となるのです。

死んでお詫びをする、という言葉もありますが、自分の身体を捨て滅ぼして清浄にするのも懺悔でしょう。

身体を捨てればそれでお詫びができるのか、懺悔ができたのか、そんな簡単なものでもありません。

なぜならば、生前に多くの人に多くの迷惑をかけ、それが業となって垢のように積もってため込まれているのです。

それを一つ一つ滅ぼしていかななくてはなりません。



スマイルBOX 鈴木 健一 副委員長

《お祝い事》



❁ パートナー誕生 高橋 秀夫さん

❁ 結 婚 記 念 高橋 秀夫さん

❁ 会 員 誕 生 高橋 秀夫さん
堀江 勤さん

▶宮田 憲一さん 本日は渡辺ご住職のご来訪に感謝申し上げます。

よろしくお願いいたします。

▶堀江 勤さん 最勝寺 渡辺住職の来訪を記念して。卓話、楽しみにしています！

▶高橋 秀夫さん 明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく。

▶早瀬 浩一さん 最勝寺ご住職 渡辺明照様、ようこそお出で下さいました。卓話楽しみにしておりました。よろしくお願いいたします。

▶松浦 真也さん 最勝寺ご住職 渡辺明照様、本日はよろしくお願いいたします。

▶中里 泰久さん 渡辺明照ご住職ようこそ。本日はよろしくお願いいたします。

▶鈴木 健一さん 最勝寺 渡辺住職の来訪を記念して。よろしくお願いいたします。

本日の合計 28,000円 累計 312,000円

出席報告

会員数	出席数	欠席数	病欠	免除
20	6	9	1	4



ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理規準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理想を实践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。